

ぶんぐ博 2012 探訪記

世の文具好きの胸をこんなに躍らせるイベントが、他にあるだろうか。十月二

のこだわりや熱い想いを伺い、知ることが出来る絶好の機会である。

ないとは分らないものも多く、実際に試させてもらって初めて良さが実感できた。

消費者は次々開発される新商品にも即座に適応していく。しかし、新しい使用方法や使用場面には、少なからず新たな文化が生み出されるのではないか。文具の開発は、それを使う人々の文化の創造でもあると思

五日に大阪で行われた事務用品の展覧会「ぶんぐ博2012」(大阪文具事務用品協同組合主催)の会場は、まさに文具好きが一堂に会し、独特な熱気に包まれていた。

会場を回ると、どの企業も、自信の新商品が並べられており、見慣れているはずの文具が目まぐるしい進化を遂げていることに驚いた。デザインやカラーバリエーションなど、見た目の進化のみならず、最先端の技術によって様々な機能が付加され、使用場面がより具体的に特定されるようなものが多いと感じられた。それらは、使い方を教わら

そんな中、某メーカーの社員さんにお話しいただいた商品と消費者の歴史は、まさに今の自分の状況を思い起こさせるものであった。その商品は油性ペンなのであるが、発売当時、世間にはペンの「ふたを閉める」という文化がなかった。そのため、ペン先が乾いて使えないものにならないといった苦情が多く、定着には苦労したのだという。

ぶんぐ博の会場は、未知の商品で溢れていた。集まった文具好き達が文化として定着させていくかもしれないと思うと、新たな可能性に自分まで心躍らずにはいられなかった。

このイベントは、ただ商品が陳列されているのではなく、各メーカーでブースが設けられ、社員さん直々にお話しができる。普段、我々消費者にはなかなか知り得ない開発秘話、商品へ

情報に溢れた今の時代、

(高橋恵)

奈良女子大学文学部人文社会学科文化メディア学コース編
(2012年度後期「文化社会学演習」報告書)

『文房具—ぶんぐ大学への招待—』

2013年8月12日発行

編集・発行 奈良女子大学文学部 人文社会学科
文化メディア学コース (小川研究室)

〒630-8506 奈良市北魚屋西町 電話&FAX 0742-20-3259

E-mail ogawax@dream.com

印刷 株式会社 実業印刷